

FUJIEDA ROTARY CLUB

# Weekly Bulletin

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321  
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040

会長：柳原寿男 副会長：鈴木廣利  
幹事：宮川邦光 副幹事：松葉隆夫



2004-2005年度  
RIテーマ

ロータリーを  
祝おう

100年の歩み

グレンE.エステス・シニア



富士山 (焼津市田尻海岸にて)

[写真提供：櫻井龍太君]

## 第1609回

CELEBRATE  
ROTARY



<ソング> 奉仕の理想

<ソングリーダー> 石垣 善康君

### 会長挨拶

柳原 寿男君

先週の例会で村松さんの会社、(株)藤枝事務器商会在米山功勞、法人の部で表彰されました。その折、表彰状を読ませていただきましたが、最後の一行、ロータリー米山記念奨学会理事長島津久厚の固有名詞をどう読むか途惑いました。(ひさあつ)と読ませていただき、結果的には正しかったです。当日配布されたロータリーの友2月号に、「私のロータリー50周年」と題して島津久厚氏のロータリー100周年記念特別寄稿が掲載されており、確かめることができました。

氏名を正しく読むことは大切ですが、時にはどう読んでいいのか迷う事もあります。例会でのピジターや、卓話者を外部からお招きした際、当クラブでは、事務局の柴さんが、あらかじめ振り仮名をつけておいてくれるので助かります。これからも失礼にならないように気をつけたいものです。

さて、前述の「私のロータリー50年」の中に印象に残った箇所がありますので、抜粋して記しますが、詳細はぜひご一読下さい。

(長いロータリー生活で、いろいろ経験させていただき得たものは、何よりもロータリアンにならなかったならば、到底得られなかったであろう、多くの友人をつくることができました。また普通ではできない経験も、積ませていただきました・・・)都城クラブのチャーターメンバーであり、創立時の会長を務められた島津氏が、初めての公式訪問に、ガバナーの小菅金造氏(神戸RC)を迎えた時の話も興味深いものです。(昼食をこ

緒したときにピフテキが出されたのですが、しみじみ「島津さん、神戸の牛肉は柔らかいですよ」と言われ・・・後で考えると、当時の都城の牛肉はよほど固かったのだろうと、申し訳なく思った・・・)

ロータリーから分かれて、ライオンズクラブが設立されたいきさつや、社会奉仕といえ、昔は地域社会に対してであり、自分の住む都市がテリトリーであったこと、境界外は奉仕活動の対象外であったことなど述べておられます。

(私が入会した時代と現在では、ロータリーも随分変わりました。50年もたったのですから、変わるのが当然です・・・。最も大きくかわったのは、ロータリー財団による大きなプロジェクトによる奉仕活動であろうと思います。ポリオ・プラス、奨学金プログラム、研究グループ交換プログラム、3-Hプログラム、国際人道的プロジェクトのためのマッチング・グラント等々で、ロータリーは国際的にその存在を知られています。

ただこのような活動は大いに評価されるべきですが、ロータリーはそれだけでよいのだろうか、との反省も出ているように思います。例えば、2004年の国際協議会の際に、元RI会長のピチャイ・ラタクルさんは「昨年の国際協議会まで、長年言及もされず、討議に上がらなかった課題 - それは職業奉仕です」と言われ、ロータリーとしては、職業奉仕を大切に考えるべきだとされています。又「世界的な経済界の腐敗、墜落を嘆いて、ロータリアンの多くが加わっているこの経済界の墜落は、

ロータリーの責任ではないか」と鋭く職業奉仕に対する認識を、さらに深めることを提唱されたと聞いています。私も以前ロータリーの先輩方から親睦とともに職業奉仕の重要性を説かれ、職業奉仕こそがロータリーが他の奉仕団体と異なっている点だと教えられたことを思い出す次第でした。）

以上、省略しながら勝手に抜粋させていただきましたが、さすが半世紀をロータリーの中に生きて来られた方の、ロータリーの流れをしっかりと把握された、会員必読の100周年記念にふさわしい特別寄稿と思いました。

理事会報告 宮川 邦光君

- 2月、3月のプログラムが承認されました。
- 3月12日(土)開催の第5分区IM出席者が承認されました。

理事及び各委員長、新入会員が出席義務者

- 100周年記念夜間合同例会が承認されました。
- 3月の理事会開催日が承認されました。

3月2日(水)13時30分から

幹事報告 宮川 邦光君

- 2004年の手続要覧が届いております。
- 国際ロータリー2620地区のインターアクト小委員会青島克郎次期委員長宛に「新世代サミット」と「地区チーム研修セミナー」及びロータリーアクト第31回地区年次大会開催の参加依頼の案内が届いております。
- ロータリアン2月号の英語版が届いております。

出席報告 松葉 隆夫君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
35 / 41 85.37%	28 / 41 68.29%

(1)欠席者(事前連絡とメーカーをどうぞ)  
○飯塚君 浅川君 板倉君 鈴木舜君 仲田晃君 望月志君

ビジター

河村 武君(榛南) 堀池 勇君(榛南)  
増田 平吉君(焼津) 松浦 正秋君(藤枝南)  
藪崎 宰一君(藤枝南)

スマイルBOX 松葉 隆夫君

- 会員誕生祝・夫人誕生祝ありがとうございます。  
青島 彰君
- 大変遅くなって申し訳ありません。皆出席の記念品ありがとうございました。 増田 國衛君
- 3月12日IMを宜しくお願い致します。

河村IM実行委員長様

スマイル累計額 544,300円

3月12日 IMご挨拶



河村委員長

堀池副委員長

インターアクト海外研修報告

青島地区副委員長

昨年暮れの23日から27日の5日間にわたり国際ロータリー2620地区インターアクト小委員会主催



によるオーストラリア・ケアンズでのインターアクト海外研修プログラムが実施されました。本日は順心高校から参加された山下友理さんと増田悠さんを例会に招き海外研修報告を致します。

山梨、静岡のインターアクトクラブ20クラブの内8クラブからの希望者15名(男子2名、女子13名)と当地区浜松のロータリーアクト女子部員2名の特別参加者を加え18名の参加者と古田地区委員長、焼津中央高校金崎顧問、地区副委員長の青島、JTB添乗員の重岡さんの4名の引率者、総勢19名で行って参りました。

チャーターしたバスで西遠女子学園の2名とロータリーアクトの2名をのせ浜松ICを出発、焼津ICで焼津中央と順心の4名の生徒、金崎

先生と私の6名が乗り込み次の静岡ICで常葉学園の2名の生徒、次の沼津ICで日大三島、三島高校の4名の生徒と古田委員長が加わり、最後の御殿場ICで山梨県から参加の2名の生徒を乗せ一路成田空港へ向かい、夜8時56分カンタス航空168便でケアンズに旅立ちました。

早朝ケアンズ空港に降り立ち専用バスで市内のメルキュールホテルに到着。

ホテル到着直後から雨が降り出したが、ホテルでブリーフィングと休憩を取った後、市内見学とショッピングをし、各自で昼食をとり一旦ホテルに戻ってから夜行性動物ツアーに出かける。初頃には天候も回復し青空も見えてきました。この動物ツアーではゴルフ場のカンガルーやワラビーの生息する岩場で動物に触れたり巨大な蟻塚や大量の木にぶら下がった蝙蝠を見たりし、最後に林の中でのバーベキューで夜食をとりホテルに戻り一泊しました。次の3日目は朝から世界遺産のバリアリーフにあるグリーン島に連絡船で渡り珊瑚礁や透き通った海水の中を泳ぐ魚たちをグラスボトムの船で観察したり、水着でシュノーケリングをしたりして楽しんだ後昼食をとり3時頃本土に戻ってファームステイ先のあるアサートン地区に移動しファームステイ家族との対面をし生徒達は不安を感じながらも各ステイ先に散っていきました。この日も残念なことに朝から2時頃までは雨が降りグリーン島でも澄み切った青い空を観ることが出来ませんでした。

4日目、私たち引率者は2つのファームステイ先を周り生徒達の様子を見て参りましたがやはり生徒達は英語でうまく意志を伝えることが出来ず苦労していたようです。

ファームステイ先では農場での作業やステイ先の家族とスーパーに出かけたりとか貴重な体験や思い出づくりができ正味1日のステイでは物足りなかった様子でした。

やはりオーストラリアは大陸、ケアンズから

ファームステイ先のあるアサートンに行くのも時速80キロの車で1時間半位かかり、ファームから別のファームに行くのも30分から1時間くらい草原の中を走らないとたどり着けません。

最終日、各ファームの家族に送られ2日前に対面した場所にそれぞれの生徒が集まってきて短い間の一緒の生活だったのに別れの寂しさに目を潤ませていました。

思い思いの気持ちを抱きながらバスでケアンズ空港に向かい昼の12時10分発のカンタス航空44便で一路成田空港に飛び立ちました。

成田に到着しチェックアウトの後、バスで出発の時と同様に東名高速に入り各ICで別れ期待と不安で出かけた研修旅行を無事に終えました。

天候には恵まれず残念ではありましたが、それでも生徒達にとって貴重な体験と楽しい思い出で生涯忘れられない研修旅行になったものと確信しております。

#### オーストラリア研修の感想

山下 友里さん

今回私は初めて海外研修に行ったので、すべてのことが初めての経験で、すごく緊張しました。



オーストラリアでは食べ物や薬などの持ち込みにものすごく厳しくて、空港での厳重なチェックに驚きました。

向こうは夏でしたが、雨季だった為、そんなに暑くありませんでした。ですが、1日目のショッピングの時に大雨が降ってきて、移動するのが大変で困りました。

雨は2日目のグリーン島の観光の時も降ってしまいましたが、雨が降っていてもグリーン島はとても綺麗な島でした。泳げなかったけど、下がガラス張りになっている舟に乗って、海の

中のサンゴやすごく色が綺麗な魚たちを見ることができたので、その時は本当に楽しかったです。砂浜も白くて、海には青いカニなどもいました。あんなにキレイな海を見たのは初めてで感動しました。

私がオーストラリアに行って一番楽しかったのはバスに乗って行った動物ツアーです。日本では絶対見れない野性のカンガルーやポッサムを近くで見ることが出来ました。ロックワラビーは自分の手から直接エサをあげて、触ることもできました。他にも牛や珍しい鳥や、巨大蟻塚、七面鳥など、見た事もない動物や自然に出会えてすごく楽しかったです。

3日目から最終日までのファームステイでは、慣れない英語を何回も聞き直しながらも、簡単な英語でなんとか通じたり、ジェスチャーなどで伝えたりしながら楽しい交流ができました。

ピクニックに連れて行ってもらったり、趣味の釣りの話を聞かせてもらったり、買物に連れて行ってもらったり、一緒にケーキを食べながらUNOをやったり、2日間しかありませんでしたが、たくさんの思い出ができました。

私がお世話になった農家はマンゴーやライチを栽培していて、毎回食事の時に出てきてすごくおいしかったです。英語は難しかったです。今回の研修はとても貴重な体験だったと思います。この機会がなかったら、私はたぶん日本から一步も外に出ないで今を過ごしていたでしょうし、オーストラリアの自然や習慣などにたくさん触れる事ができました。

初めてのことで緊張の連続でしたが、とても楽しかったのでこの経験は私の一生の中で忘れられないものになると思いました。

オーストラリア海外研修に行って

増田 悠さん

私はこの海外研修に行ってとても楽しかったです。12月23日～27日まで、日本では体験できない事をたくさんやりました。

1日目、私達はバスで成田空港に向かいました。



初めての海外だったのでとても緊張しましたし、何を持っていけばいいのかわかりませんでした。バスの中には、初めて会った人で、

とてもやっていけるのかわかりませんでした。

そして、一番心配だったのが私は乗り物酔いするのでとても心配でした。けれど、やっぱり心配していたことが的中して、乗り物酔いをしてしまいました。成田空港に着いたのは夜でした。成田空港ではご飯を食べたけれど、まわりは外国人ばかりで、とても緊張しました。

飛行機に乗ると、中は広くてとてもびっくりしました。飛行機が飛び立ちました。何もかもが初めての体験でした。

24日の朝、私達はオーストラリアのケアンズ国際空港に到着しました。日本は冬で、オーストラリアは夏だったので、飛行機をおりた瞬間とても暑く感じました。オーストラリアの空港では、荷物の検査がありました。飴を一つでも持っている、入国カードに食べ物を持っていると書かなければいけません。私は、酔い止め用に持っていった飴があったので、そこにチェックをつけました。そうしたら、空港の荷物検査のところ、チェックがついている人とついてない人で分かれたので心配になりました。けれど特に何もなくすぐに通れたので良かったです。荷物検査が終わり、外に出ると日本とぜんぜん違い、これが海外なのかな。と思いました。私達が行ったのは、乾季ではなく、雨季だったのでそれほど暑くありませんでした。けれど、天気予報に全部の天気が出ていたのでどうしていいのかわからなくなりました。

ホテルに着いて説明を聞いた後着替えました。そして、朝ご飯を食べショッピングに行きました。ショッピングに行く時、海沿いを歩いて行きました。しばらく歩いていると、いきなりスコールが起り傘を出す前にびしょりになりました。そ

して、そのままショッピングに行き、色々なお店に行きました。デパートでは、チョコレートがたくさんあり、みんなのお土産に悩んでしまいました。お昼は自分達で食べました。どこを見ても外国人なので自分達以外に頼れる人がいなかったのです。そして、コンビニでサンドイッチを買って食べたら、何かとても辛かったです。

午後には、動物のツアーに行きました。私はオーストラリアの動物は見たいけれど、乗り物酔いが激しいので半分嫌でした。ですが、ロータリーのお姉さんに酔い止めをもらい、酔わずに色々な動物を見れました。私が見たかったコアラは、ケアンズでは熱くて生息できないのでいませんでした。そのかわり、カンガルーや蟻塚、ポッサム、ワラビーなど、たくさんの動物を見ることができました。最後にカモノハシを見ることができました。めったに見ることができないカモノハシを見れたのはとてもうれしかったです。

25日にはグレートバリアリーフに行きました。あいにくの雨でとても大変でした。船にもやはり酔ってしまい、向こうでも気持ちの悪いままでした。そして、サンゴ礁を見にボートに乗りました。そのボートもとても揺れて大変になってしまいました。けれどとても綺麗なサンゴ礁が見れたのでとてもうれしかったです。サンゴ礁には、ファインディングニモにでているカクレクマノミもいました。ファインディングニモはオーストラリアで作られたそうです。

ご飯を食べてからは自由行動になりました。私は調子が悪いので海では泳がないで、島を一周しました。島には青い甲羅のカニがいました。色々な面白いものがあったとても面白かったです。そして砂も日本と違って白っぽい砂でした。

午後にはファームステイ先の人と合流しました。私はロビンとトニーに家にお世話になることになりました。私の他にも西遠女子や焼津中央、山梨英和の人と一緒にしました。

オーストラリアの人は夜寝るのがとても早く、朝が早いです。そして、お風呂がシャワー室だけ

しかなく、そこも雨水をためて使っているそうです。長い間お湯を出していると水になってしまいます。このようなことから、私はやっぱり日本がいいと思いました。

そして、26日、27日にはファームステイ先の家で過ごしました。26日には買物などに連れて行ってもらいました。午後にはお昼寝をしたりして夕方になると牛のミルクを作るところに連れて行ってもらい、牛の乳を搾らせてもらいました。牛の乳は温かくとても変な感じがしました。

こうして5日間があっという間に過ぎてしまい、27日、とうとう日本に帰る日がきました。私はもっとオーストラリアにいたいと思いました。日本もいいけど、オーストラリアだと周りに家があまりなく、のんびりできてとても良かったし、何よりロビンとトニーがとてもやさしくしてくれてうれしかったです。また、機会があったら行きたいと思いました。

### 国際奉仕委員会卓話

青少年交換生について 委員長 仲田 廣志君  
皆様、今日は。今日は国際奉仕委員会で卓話をする様にとのお話をいただきました。

私自身、常日頃より真味に国際奉仕について考えたり、勉強しているということではありませんので、特別なお話も出来なく、ありきたりのお話で申し訳ありませんが、暫く御辛抱をいただきたいと思います。

私が国際奉仕委員長を指名されましてから、来年度の青少年交換学生として、竹越さんが応募してまいりました。

当初の計画では今年度は他クラブの国際奉仕事業等の把握を年度後半から進めていくつもりでしたが、俄かに忙しくなりました。

竹越さんは現在、事前の研修を受けています。私もその研修会と一緒に参加させていただいていますので、その中で感じた事、勉強してきた事等を少しお話させていただきます。

彼女が派遣を希望してから今まで3日程オリエンテーションが行われました。オリエンテーショ

ンで、昨年の7月～8月にかけて帰国した学生達をロータリー用語ではローテックスと呼ぶということを知りました。それから、これから留学しようとする学生達(アウトバウンド)そして現在日本に留学して滞在している学生達(インバウンド)が一同に会して交流し、情報交換等が行われました。

内容としては、帰国学生については、留學生活で体験したい色々な事、感じた事等の報告、又、現在日本に滞在している学生については日本の印象、自身の近況報告、(これについては、すべて日本語で話をしていました。来日から半年で、難しい日本語がしゃべれるのには驚きました)そして、留學候補学生達は、英語によるスピーチ等を行ったりとの内容でした。

そうした会に参加させていただいて感じた事は、これから留学しようとする学生と帰国した学生とを比較して大きな違いが見られるということです。留學を終えて、帰国した学生達は、何か自信に満ち溢れて、大げさかもしれませんが、輝いている印象を受けました。

それと比較して、これから留学しようとする学生達は、控えめというか、積極性に欠けるというか、ごく普通の日本の高校生との感じを受けました。

先日、島田クラブの推薦でメキシコへ留學された岡部さんのお話しをお聞きしました。

自身に満ち溢れた素晴らしいお話だったと思います。そんな彼女も日本を出る前は、あれ程の輝きはなかったのではないかと思います。

それこそ、留學によって得たものではないかと感じました。外国へ一人で一年間留學し、言葉もわからない中で、様々な経験をし、苦労した事が彼女に大きな力と自信をつけてくれたものと思います。

私もこうしたオリエンテーションに参加させていただいている中で感じますのは、ロータリーの青少交換事業は本当に素晴らしいプログラムだと思えますし、私自身これからの人材を育てる事業

の一員であることに幸せを感じています。

これから藤枝クラブも、一人送り出し、一人受け入れることになると思います。皆様で大きな期待をもって竹越さんを送り出し、又、来る留學生を暖かく迎えてあげ、大きく育ててあげられたらと願っています。

以上、つたないお話で申し訳ありませんが、卓話とさせていただきます。

(担当/成瀬)